

この街で、働く人たち



写真 = 間部百合 イラストレーション = 川上貴士 文 = 孫 奈美

Job : 目黒区立平町児童館職員

Name : 古郡理恵

2012年、認可保育園や学童クラブ、児童館などを運営するライクアカデミー株式会社に入社。2018年より現職。平町児童館は、0～18歳の児童とその保護者が利用できる施設。運動遊びプログラム「JUMP-JAM」(千葉工業大学創造工学部引原有輝教授監修のもと、全国の児童館を支援する児童健全育成推進財団とナイキが開発)ほか、多彩な活動を行う。写真右下は、中高生に人気のスタジオ。平町児童館 ①目黒区平町1-5-3 ②03-3723-3750 ③都立大学駅より徒歩9分

体育科のある高校に進み、大学では中高の保健体育教諭免許を取得しました。特技のスポーツを生かしてさまざまなボランティアをするなかで、パワーあふれる小学生と触れ合える仕事を志すようになりました。遊びを通して子どもたちの生きる力を育む児童館職員という職業があることを知り、子どもたちに寄り添いながら、いろいろななかかわり方ができる理想的な仕事だなど。

児童館は乳幼児から高校生までが無料で利用できる施設です。みんなの遊び場であり、子どもたちの“やりたい”を実現できる場所でもあります。ここでは、小中学生がイベントを考案し、運営もしています。小学生とは、「何がしたい?」「どうやったらできるかな?」などと会話の往復をしながら、やりたいことをサポートしています。中高生はアイデアが豊富なので、実現するためのプロセスを一緒に考えます。昨年度は、中高生の発案で館内放送を使った「未成年の主張」や、地域の方々を招待して大喜利大会を行いました。そんな日々の遊びを通して子どもたちの社会性や友達との関係づくりなど、生きる力をサポートしています。子どもたちの“やりたい”を生かし、それぞれの可能性を引き出す。それが私たちの役割なんだと。

平町児童館で特に人気のプログラムが、3年前から取り入れている「JUMP-JAM」です。15分ほどの運動遊びプログラムを1日4回、定員10名で行っているのですが、毎回あつという間に予約が埋まってしまうほど。「JUMP-JAM」には50種類以上のゲームがあり、それらを子どもたちが自由にアレンジして、楽しく体を動かしています。コロナ禍の運動不足で、ニーズがより高まっていますね。

平町児童館では中学生の来館人数も増えていて、そのことから公園などの子どもたちの居場所が減っていることを感じます。足を運べば誰かに会える地域の大切な居場所として、この先も児童館をずっと残していきたいですね。乳幼児を育てるお母さんもコロナ禍でなかなか出かけられず、ある方は「うちの子は、児童館で初めて家族以外の人に会いました」とお話しされていました。子育てをしていると、「自分だけがこんな不安ごとを抱えているのかな」と悩みがちですが、本当はみんな同じ。気軽に行けて、子どもたちが安全に遊べて、つきっきりの毎日から少しだけ解放され、子育ての悩みも共有できる。お母さんたちのほっとした表情を見ると、児童館の存在意義をあらためて感じます。